

大分県長期漁海況予報

〔平成 30(2018)年 8 月～12 月までの海水温・漁模様の見通し〕



大分県農林水産研究指導センター水産研究部
879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦 194-6

Phone0972-32-2155 Fax.0972-32-2156 <http://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>

海況経過<平成 30 年 4～7 月>

■黒潮

- ・都井岬～足摺岬では、5 月上旬～中旬を除いて、接岸傾向で推移しました。
- ・潮岬以東では、A型(大蛇行流路)で推移しました。

■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は、4月は「**平年並み**」、5月は「**やや低め～平年並み**」6月は「**平年並み～高め**」、7月は「**平年並み～やや高め**」で推移しました(図1)。

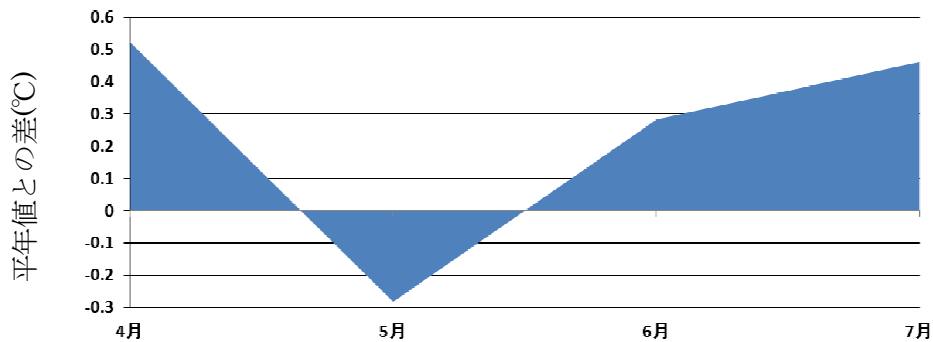


図1 豊後水道における水温の平年値との差(0～75m層の平均値)

■塩分

豊後水道の塩分(0～75m層)は、4、5、6月は「**平年並み**」、7月は、「**低め～平年並み**」で推移しました(図2)。

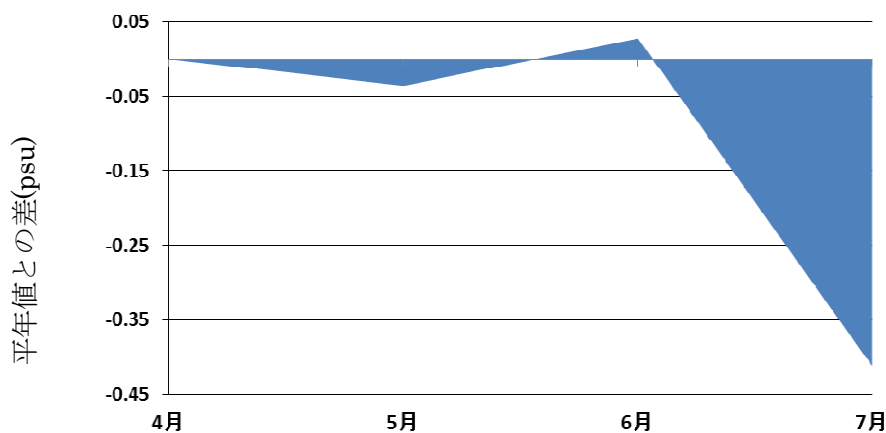


図2 豊後水道における塩分の平年値との差(0～75m層の平均値)

今後の海況の見通し<平成 30 年 8~12 月>

■黒潮

- ・都井岬～足摺岬沖では、接岸傾向で推移するでしょう。
- ・潮岬以東ではA型(大蛇行流路)で推移するでしょう。

■沿岸水温

沿岸水温は「平年並み」～「高め」で推移するでしょう。

■予測の説明と根拠

・黒潮流路予測は平成 30 年度第 1 回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係都道府県:2018)を参考にしました。

・沿岸水温は気温の影響を強く受け、福岡管区気象台の「九州北部地方3ヶ月予報」(平成30年7月25日発表)では、今後の気温が以下のように予測されているため。

「低め20%、平年並み40%、高め40%」

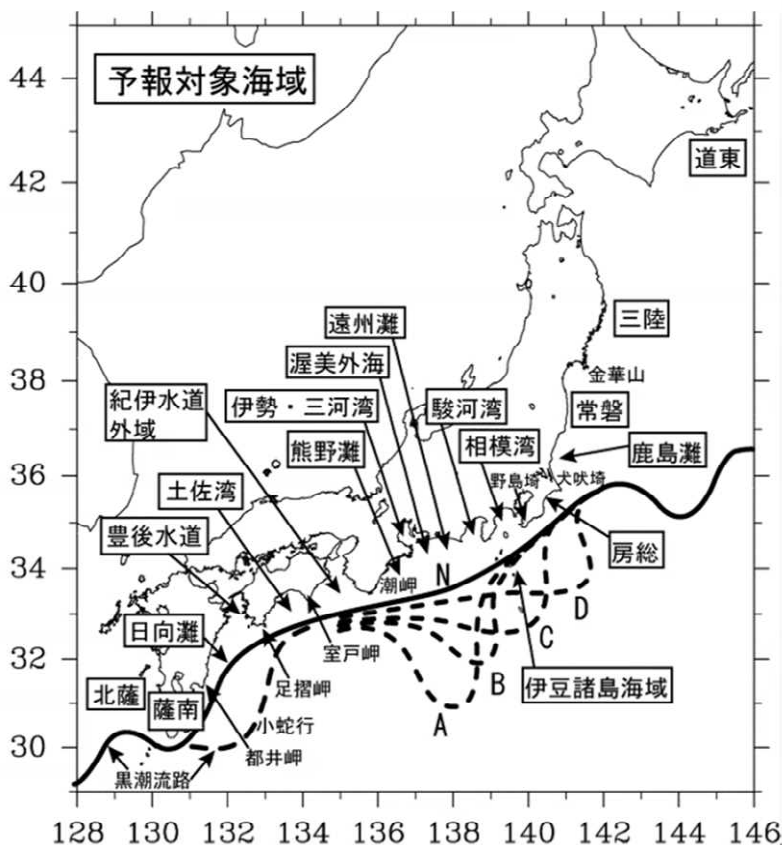


図 3 黒潮流型の分類

※上図は太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報
(水産研究・教育機構プレスリリース資料)より引用

■マイワシ

□2018年4～6月の漁況経過

2018年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの漁獲量は4、5月が0トン、6月が2トンでした。前年比100%、1986～2017年の平均値(以下「平年」)の比0.1%と、前年並みで平年を下回る漁獲量となりました。

なお、近隣海域^(用語解説②)では宮崎県は前年の35%、愛媛県は前年の2%、高知県は前年の漁獲がありませんでしたが、平年(2007～2016の平均値)の11%と、各県低調でした(宮崎県は1～6月、愛媛県、高知県は4～6月)。

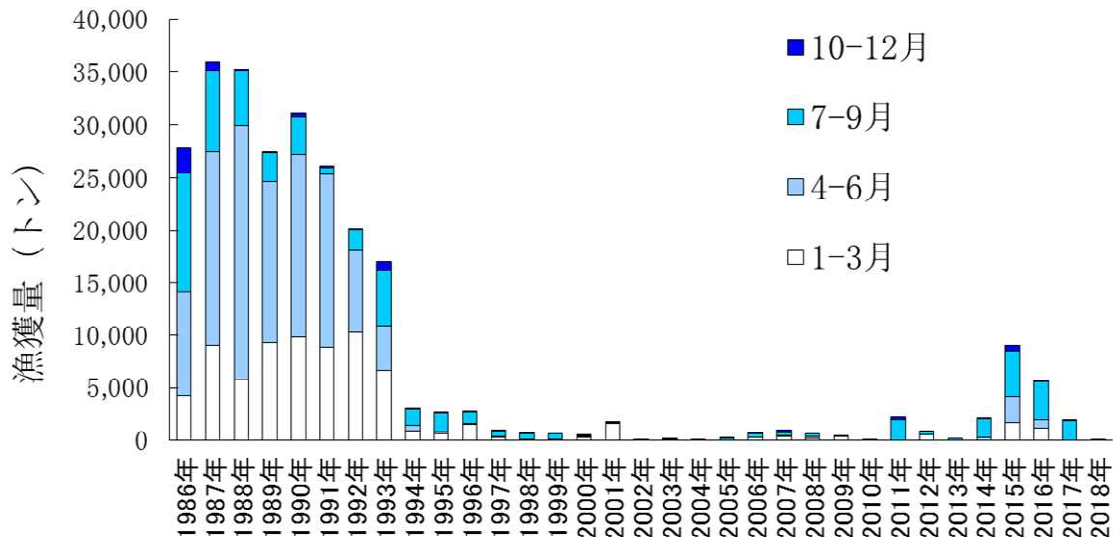


図4 マイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2018年8～12月>

来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年並みから下回るでしょう。(2017年8～12月:1,008トン)

漁獲対象年級群および体長:

8～12月は被鱗体長12～18cmの0歳魚(2018年生まれ)が主体となるでしょう。



【説明】

予測期間中は、0歳魚(2018年級群)が漁獲の主体になる見込みです。4～6月の漁獲量は前年並みとなりましたが、6月の終わりまでは漁獲が見られなかったことから、来遊水準は前年並みか下回ると予測しました。ただし、マイワシ資源は東日本を中心に太平洋沿岸各県で回復傾向が見られていることから、近年の資源低迷期より高い漁獲量となる可能性もあります。

■カタクチイワシ(成魚)

□2018年4～6月の漁況経過

2018年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの漁獲量は4月に106トン、5月に13トン、6月に481トンの計600トンでした。前年比91%、平年比94%と、前年並み、平年並みの漁獲量となりました。漁獲の主体は、被鱗体長(用語解説①)6.5～8cm前後の1歳魚(2017年生まれ)でした。なお、宮崎県では前年の17%、愛媛県では前年の37%、高知県では前年の36%の漁獲量となっています。(宮崎県は1～6月、愛媛県、高知県は4～6月)。

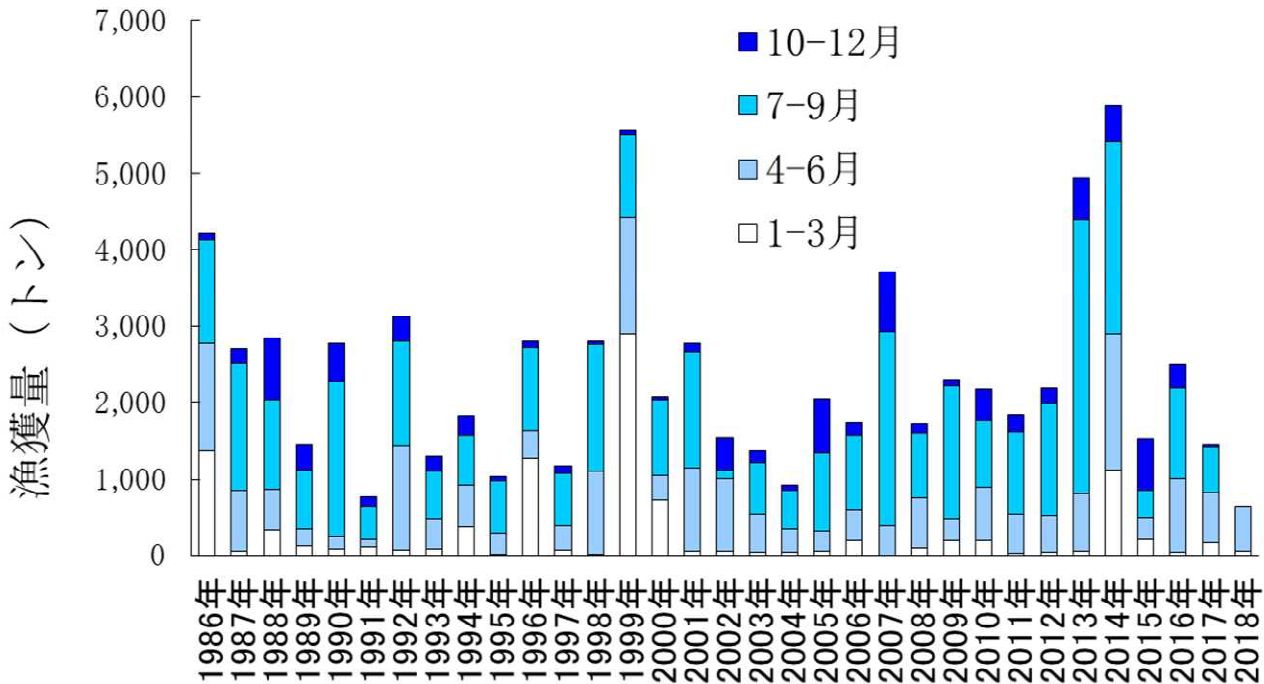


図5 カタクチイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2018年8～12月>

来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年並みから上回るでしょう。(2017年8～12月:225トン)



漁獲対象年級群および体長:

被鱗体長8cm前後の0歳魚(2018年生まれ)主体に1歳魚(2017年生まれ)が混じるでしょう。

【説明】

1～6月の漁獲量(1歳魚主体)が前年を下回っていることから(前年比78%)、1歳魚(2017年生まれ)が漁獲の主体となる8月は前年を下回ると予想されます。一方で、8～10月の3ヶ月間における漁獲量は4～6月の宮崎県シラス漁獲量と関係があり、その関係から推測すると前年を上回る結果となったことから、総合的に判断して来遊水準は前年並み～上回ると予測しました。

■ウルメイワシ

□2018年4～6月の漁況経過

2018年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの漁獲量は4月に0トン、5月に143トン、6月に100トンの計243トンでした。前年比806%、平年比132%と、前年、平年を上回る漁獲量となりました。漁獲の主体は、被鱗体長7～9cm前後の0歳魚(2018年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の160%、愛媛県では前年の117%、高知県では前年の314%の漁獲量となっています。(宮崎県は1～6月、愛媛県、高知県は4～6月)。

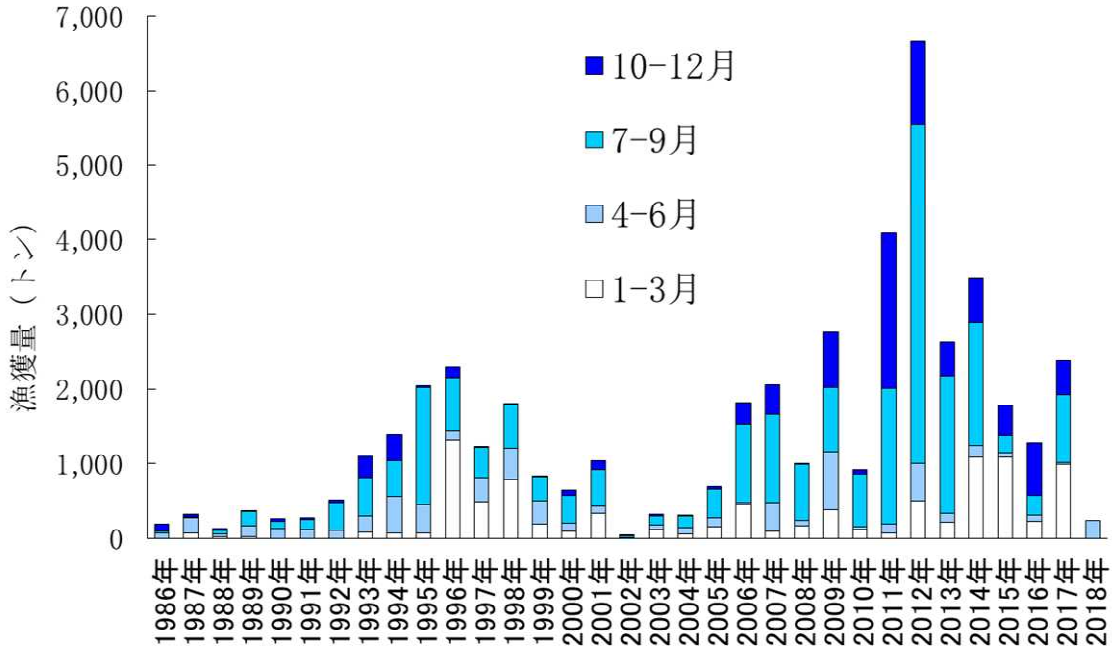


図6 ウルメイワシのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2018年8～12月>

来遊水準:

豊後水道への来遊量は前年を上回るでしょう。(2017年8～12月:1,121トン)

漁獲対象年級群および体長:

8～10月は被鱗体長10～15cm前後の0歳魚(2018年生まれ)が主体となるでしょう。

【説明】

0歳魚(2018年級群)が漁獲の主体となる4～6月のまき網漁獲量が前年を上回ったため(前年比806%)、0歳魚の来遊に期待が持てます。さらに資源状態が良好なことも考慮して来遊水準は前年を上回ると予測しました。



■マアジ

□2018年4～6月の漁況経過

2018年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの漁獲量は4月に58トン、5月に27トン、6月に33トンの計118トンでした。前年比31%、平年比23%と前年、平年を下回る漁となりました。期間中の漁獲の主体は尾叉長^(用語解説③)16～17.5cm前後の1歳魚(2017年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の14%、愛媛県では前年の69%、高知県では銘柄「アジ」が前年の43%で銘柄「ゼンゴ」が前年の125%の漁獲量となっています。(宮崎県は1～6月、愛媛県、高知県は4～6月)。

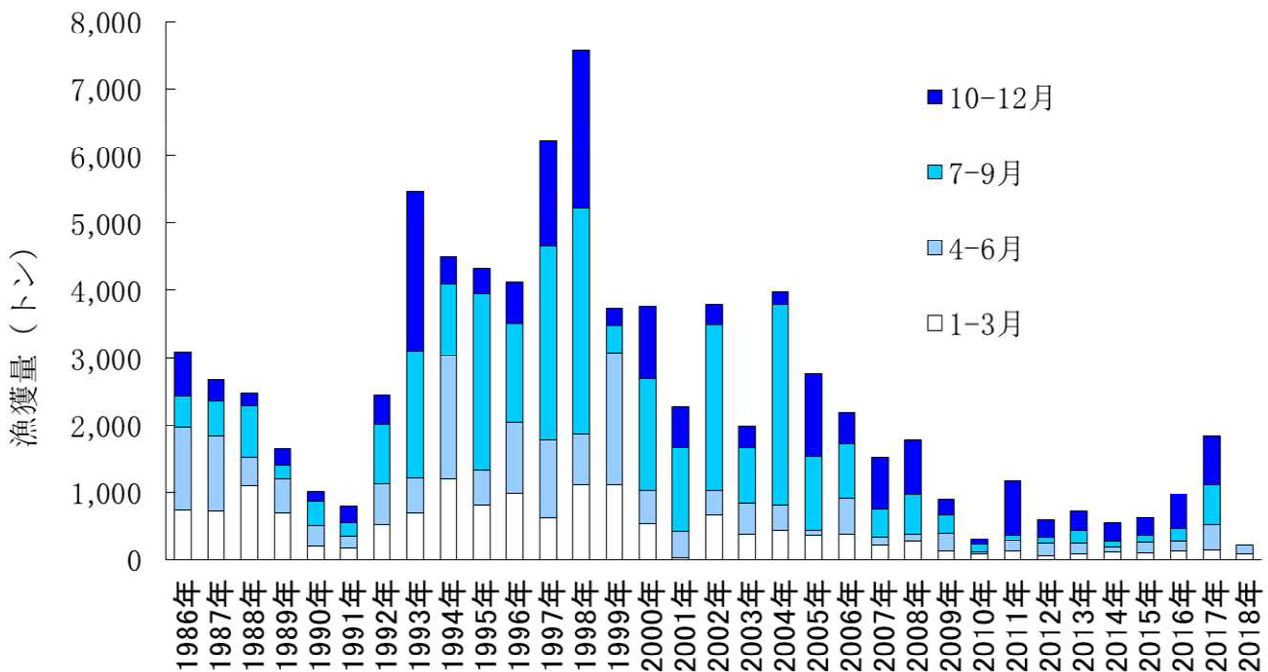


図8 マアジのまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2018年8～12月>

来遊水準:

豊後水道への来遊量は前年を下回るでしょう。(2017年8～12月:1,179トン)



漁獲対象年級群及び体長:

尾叉長15cm前後の0歳魚(2018年生まれ)が漁獲の主体となるでしょう。

【説明】

予測期間中の漁獲の主体になるのは0歳魚(2018年生まれ)と推定されます。新規加入個体が見られる1～6月における県南定置網(蒲江)漁獲量と予測期間中の県南まき網漁獲量には相関関係が認められますが、この指標からは好漁の兆しは見られませんでした。また、昨年は過去10年の中でも好漁の年であったことを考慮し、来遊水準は前年を下回ると予測しました。

■サバ類

□2018年4～6月の漁況経過

2018年4～6月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるサバ類の漁獲量は4月に354トン、5月に225トン、6月に233トンの計812トンでした。前年比81%、平年比71%と前年並みで平年を下回る漁となりしました。期間中の漁獲の主体はマサバで、尾叉長30～34cm前後の3～4歳魚(2014～2015年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の175%、愛媛県では前年の620%、高知県では前年の269%の漁獲量となっています。(宮崎県は1～6月、愛媛県、高知県は4～6月)。

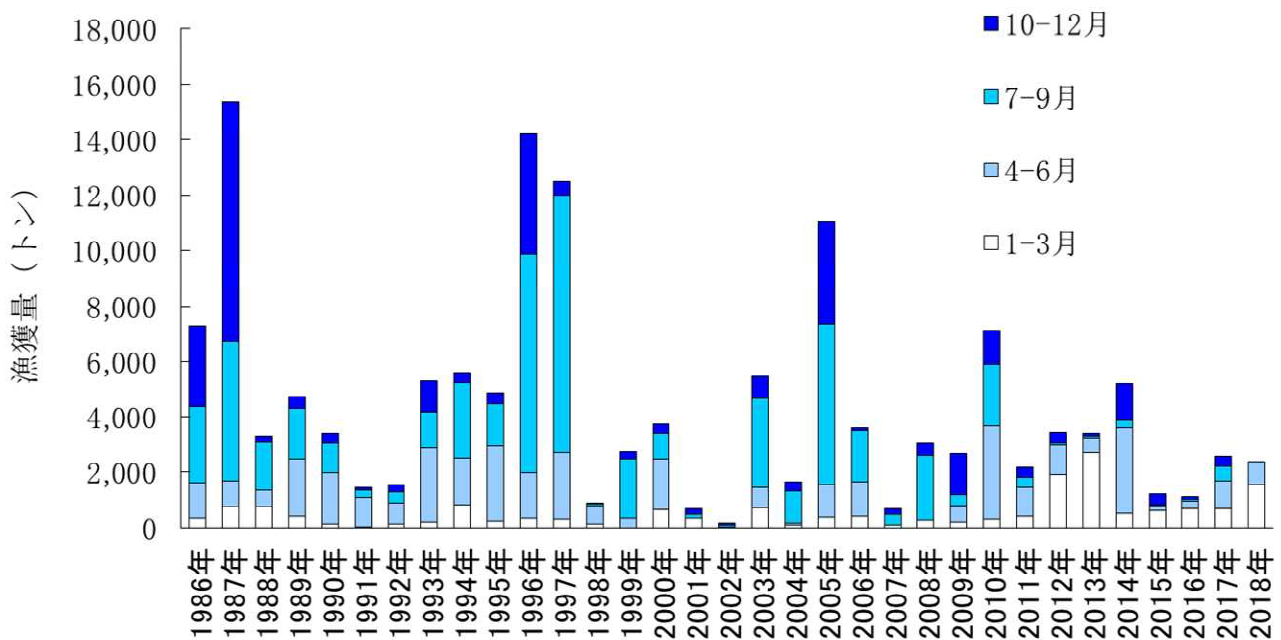


図9 さば類(マサバ・ゴマサバ)のまき網における漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2018年8～12月>

来遊水準:

豊後水道への来遊量は、前年並みから上回るでしょう。(2017年8～12月:829トン)



漁獲対象年級群および体長:

近年の調査結果によれば、期間中は尾叉長20～30cm前後のゴマサバ0～1歳魚(2017～2018年生まれ)が主体となりますが、海況によっては一時的にマサバがまとまって漁獲される可能性があります。

【説明】

近年の調査結果によれば期間中はゴマサバ0～1歳魚が主体となりますが、資源状態を考慮すると来遊に期待が持てません。一方でマサバは資源状態が良好であり、海況によっては来遊に期待が持てるため、前年並みから上回ると予測しました。

その他

■予測の根拠および参考資料

・予測は、中央水産研究所および関係都道府県による、「平成30年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類など長期漁海況予報会議」結果を基に、最新の情報を加味して行っております。

URL: <http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2018/20180730/index.html>

■用語解説

- ①被鱗体長：体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。
- ②近隣海域：ここでは、3県（宮崎県・愛媛県・高知県）の海域とし、高知県の漁獲量の前年比は宿毛湾における中型まき網によるものとししました。
- ③尾叉長：体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央（くびれている部分）までの直線距離。

■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部 栽培資源チームまで。

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6
電話:0972-32-2155
FAX:0972-32-2156